

2023年5月5日

実践女子大学・実践女子大学短期大学部  
教員研修 実施報告書 (Web 公開用)

1. 所属	短期大学部 日本語コミュニケーション学科
2. 職名・氏名	教授 板倉文彦
3. 研修期間	2022年4月1日 ～ 2023年3月31日
4. 研修先機関 (国名)	愛知大学 (日本)
5. 研修課題名	女性の働き方改革と新しい企業動向に関する研究
6. 研修経過 (月単位で記載してください) 例) 4月上旬～5月下旬:	<p>2022年4月から2023年3月まで、愛知大学に拠点を置き研修を行った。近年の日本においてはコロナ禍の影響もあり、女性の働き方に影響を与えうる変化が起きている。具体的にコロナ禍に起因する労働移動が起きた業界においては女性の就業率が高いものがあり、その移動により働き方(正規/非正規就業)が変化した可能性が見出された。</p> <p>また、日本の女性の就業に関しては欧米とは異なりM字カーブとL字カーブが存在しており、将来的な労働力不足を考えるとそれらの解消が喫緊の課題になると想定される。そのためにはリスクリングの効果的な活用がその一役を担うこととなるが、現状においてはリスクリングの定義があいまいな状況となっている。これら現状を鑑み、リスクリングの展開を主眼として学会発表および論文執筆を行った。これと並行して指導教員より労務管理に関する指導を受けた。実社会では就業に影響を与える問題として労働問題が存在しており、この指導から労務管理の全体像と、労働者は労働問題に対してどのように対処していくべきかの示唆を受けることができた。</p> <p>4月～6月：働き方の変遷に関する調査</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・働き方改革</li><li>・女性労働と企業社会との関連</li><li>・労働とジェンダー問題</li></ul> <p>7月～9月：女性労働に関する調査・研究を行い、その成果を論文にまとめた。</p> <p>7月～3月：リスクリングに関する調査・研究を行い、その成果を学会発表および論文にまとめた。</p> <p>7月～3月：労務管理に関する調査・研究を行い、次の論文執筆に活かすべくまとめ作業を行った。</p>

<p>7. 本研修で得られた成果等（論文・学会発表含む）</p>	<p>本研修期間内に、学会発表 1 回および論文 2 本を執筆した。</p> <p><b>学会発表</b></p> <p>1. 板倉文彦 (2022) 「リスクリングに対する教育機関の貢献に関する一考察」 日本キャリア教育学会第 44 回研究大会</p> <p><b>論文</b></p> <p>1. 板倉文彦 (2022) 「コロナ禍が労働移動および女性の働き方に与えた影響に関する一考察」 『経営総合科学』 第 117 号, 愛知大学経営総合科学研究所</p> <p>2. 板倉文彦 (2023) 「リスクリングの展開に関する一考察」 『歌子』 第三十一号, 実践女子大学短期大学部日本語コミュニケーション学科</p>
<p>8. 所感</p>	<p>今回の研修では、まとまった時間をとり研究に取り組めたことと、取り組みたいが時間的問題から先延ばしとなっていた労務管理に関して、指導教員から指導を受けられたことが大きな成果であった。また、時期的にもコロナ禍が一区切りを迎え社会がコロナ禍前に近い状況に戻るタイミングであり、労働移動や働き方の変化が表出するタイミングであったことも幸運であった。</p> <p>特に労務管理については、働き方が変化していくことにより今後新たな問題が発生していくと考えられ、企業側、従業員側ともにこれまで以上に対処していく必要がある。特に日本企業に勤務する要員は、職場で不都合が起きても自身からそれを訴えることは少ない。このことは、今後働き方改革の影響をより受ける女性就業者にとって切実な問題となり得ることが想定される。</p> <p>今回の研修では女性労働の変化の過程から、それによって起こり得る労働問題に至るまでの知見を得ることができた。このことを今後の研究に活かしていきたいと考えている。</p>